



二俣川小だより



11月号

横浜市立二俣川小学校 平成30年10月25日

発行責任者 校長 池田 千晶

きらきら

校長 池田 千晶

10月20日から始まった学校を開く週間に、「キラキラ展」が開かれています。図工の学習の成果を発表する場です。私はこのネーミングが気に入っています。作品を作る過程で夢中になっている姿が目につかび、見ているこちら側の頬も思わずゆるんでしまいます。見られる側も見る側も、笑みで「キラキラ」している、そんな姿をこのネーミングから連想します。

きらきらしている姿は、他の場面でも随所に見られました。1年生が植木鉢の周りで大事そうに人差し指で触っている先には、朝顔の種がありました。そのそっと触る具合に、大事なものであることが伝わってきます。2年生は、まち探検でバッグと水筒を持って、期待に胸膨らませて出かけていきました。「まち探検なの」と自ら伝えてくる姿に、子どもの期待の高さが伺えます。3年生は作品展に出した「ようこそきらきらの世界へ」を作っているとき、様々な色を色画用紙の上で踊らせていました。4年生は、愛川に宿泊体験に行き、初めての体験学習で多くを学び友との絆を深めていました。5年生は、作品展に出品した糸のこドライブで、自在に糸のこを操り、挑戦する面白さを味わっていました。6年生は、市の体育大会に向けて、大縄跳びをはじめ、朝の練習や演技などに全力で取り組んでいました。それぞれ夢中になって取り組んでいる「きらきら」している姿を見ていると笑みが湧いてきます。元気が出てきます。

水谷もりひとさんが書いた本に、「笑うと頬の筋肉が緩む。すると心まで緩む。勇気が湧く。」という一節がありました。昭和の名人と言われた5代目・古今亭志ん生と、6代目・三遊亭円生が、敗戦となったときに中国から命からがら逃げかえるときの話です。戦争難民のための奉仕活動をしている教会にたどり着きました。シスターたちは難民を見捨ててその地を去らなければならない苦境に立たされていました。しかし、この二人の落語のネタを聞いて笑い転げているうちに、彼女たちの心に希望と勇気が湧いてきたのです。「ここに残りましょう。最後の一人まで難民を助けましょう」。まさに「笑い」の力です。本校のスローガンの「笑顔いっぱい」は、希望と勇気を引き出す力が込められています。

子どもたちの希望と勇気が一層引き出されるように、職員一同取り組んでまいります。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。